

社会福祉法人ぶどうの木

## 平成29年度事業計画

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

### はじめに

平成28年度は障害者差別解消法の施行にはじまり、リオ・パラリンピックでの障害者選手の活躍、視覚障害者の駅ホーム転落事故の多発、福祉施設での障害者殺傷事件など、障害者に纏わるニュースが世間を賑わした1年でした。一方、図書館では参議院選挙の点字版・録音版の選挙公報製作に貢献しました。全国規模の大きな仕事でしたが、皆で力を合わせて乗り切ることが出来ました。秋に職員が一名定年退職しましたが、後任として4月より新しい職員が加わる事が決まっています。

当法人の管理するロゴス点字図書館(以下、当館と略記)は今年で創立64周年を迎えます。小さいながらも「考える図書館」という理念に多くの方から共感をいただき、ここまで事業を継続出来ていることに改めて感謝申し上げます。一方、昨今の時代の変化に呼応して、視覚障害者を取り巻く環境が大きく変化してきました。ニーズの多様化による業務量の増加、安定した財源の確保、職員の高齢化など、難しい課題が山積している中、当館が今後も社会に貢献し続けるために何を目指すべきか、真剣に考える時期にきています。そのような状況の中、未来へ向けて新しい一歩を踏み出すべく平成29年度の事業計画を以下に作成しました。

### 1 利用者ニーズに応える図書館事業

図書館事業は貸出と製作の2本柱で成り立っています。いずれにおいても当館が最も大切にしているのは、「利用者のニーズに応える」ことです。例えば利用媒体について、最近ではパソコンやスマートフォンでも利用可能なデジタルデータへの移行が急速に進んでいますが、インターネットを使えない方やまだテープで本を楽しまれている方にも配慮し、どちらにも対応出来るよう努めています。もちろんそれだけ業務量が増えることとなりますが、効率を理由に利用者の利便性を犠牲にすることは絶対にありません。

貸出については、インターネット上の電子図書館サピエに加入し、各地域の点字図書館と連携することで全国の視覚障害者に当館蔵書を、当館利用者には全国の蔵書を届けていますが、従来の電話によるレファレンスもしっかり行っています。録音図書へのニーズが増える一方、点字図書の需要が減る傾向にあります。録音図書の充実を図ることはもちろんですが、衰退する点字をいかに盛り上げていくかは今後の大きな課題です。盲ろうの方など、当館の利用者には点字を必要としている人がたくさんいますので、点字部門にも引き続き力を注いでいきます。

図書製作について、点字・録音各部門の詳細な計画は以下の通りです。

## 【点字部門】

### ① 製作

館内で選書した図書に加え、利用者からのリクエストで蔵書にふさわしいものを積極的に採用し、前年度を上回る製作数を目指します。同時に、劣化の進んだ点字図書の中で、歴史的価値が高いと考えられる蔵書については、長く保存するためにデジタル化・再点訳もすすめます。

プライベートサービスについては、難易度の高い資格試験の問題集、Webにアップロードされている文書、歌詞カードなど、幅広いニーズに応じてきた実績をもとに、今年度も柔軟な対応を通して利用者の満足度向上に努めます。

### ② ボランティア育成

今年度は蔵書製作基準の整備及び新しい点訳ソフトBESX利用マニュアルの作成を行い、点訳・校正作業の速度及び精度の向上を図ります。

また、慢性的な校正者不足を解消するため、点訳校正者養成研修を実施します。4～5回程度の講義と演習を通して、5～10名の校正者を養成する予定です。

## 【録音部門】

### ① 製作

テープ利用者が一定数いることから、今年度もデジター（CD）図書とテープ図書の両方の蔵書製作を継続します。

また、2013年から進めてきた、「フィラデルフィア会・声の文庫」から移管されたテープ図書のデジタル化は、当館にしか製作のない約1,300タイトルの作業を前年度中に終了しました。今年度もそのデジタルデータを順次編集してデジター図書として完成させていきます。さらに、(ア)他館でも製作されているが、まだデジター図書になっていない、(イ)原本無し等の理由でデジター図書にはできないが、当館にしかないテープの劣化に備えるもの、約300タイトルについてデジタル化をすすめます。

### ② サピエ図書館への音声データ登録推進

サピエ図書館に音声データが登録できるようになる以前に作成した約500タイトルのデジター図書について、全国の利用者にも利用してもらえよう、サピエ図書館に登録する作業を進めます。圧縮形式を登録可能な形式(MP3)に変換する作業をボランティアグループ「デジターフィラデルフィア」に依頼し、順次サピエ図書館へ登録していきます。

### ③ ボランティア育成

音訳勉強会(全11回・月1回・2時間)、音訳校正勉強会(全11回・月1回・2時間)、平成28年度音訳者養成講習会修了者のフォローアップ勉強会(全11回・月1回・2時間)を開催します。また、デジター編集者勉強会を例年通り、年1回行います。

## 2 中途失明者支援を通じた地域貢献

平成23年度より実施している中途失明者への点字教室を継続して実施します。「中

途失明者に点字は難しい」という一般論に対し、当館では点字という、触って識別しやすい大きめの点字を用い、自身も当事者である講師の方のきめ細かな指導のもと、新しい点字利用の可能性を提案してきました。

またこの事業は地域貢献の役割も担いつつあります。近年、何らかの病気や事故を理由に人生の道半ばで視力を失う人が増えています。そのような方が地元で豊かな生活を始めるための窓口・支援機関として、この事業を展開出来るのではないかと考えているからです。実際、この事業を開始したときの受講生は全て江東区在住の方でした。改正社会福祉法では、地域における公益的な取組を実施する責務が規定されています。高齢化が進み、視力を失う方が今後さらに増加することが見込まれる今の時代において、当館が長年培ってきた知見を地域の方へ還元していけるよう、内容の充実を図っていきます。

平成29年度もこれまでと同様月2回のペースで受講生のレベルに合わせた講義と実習を行っていく予定です。

### 3 イベントを通じた普及・啓蒙

毎年好評をいただいている「チャリティ映画会」と「ロゴスの文化教室」を例年通り開催します。図書館の活動や理念を多くの方に知っていただく上で重要な業務です。昨年も、イベントにはじめて参加された方から、理念に共感したのでぜひ支援したいとの嬉しいお問い合わせをいただきました。

「ロゴスの文化教室」では「考える図書館」という理念にふさわしく、難しいテーマを講演者の方にわかりやすく解説していただきます。今年度も四谷のニコラパレを会場に、6月10日の開催を予定しています。

昨年は6月に開催した「チャリティ映画会」ですが、会場の耐震工事終了を受け、今年度は秋に開催します。こちらも当館らしいテーマ性のある作品を選定し、たくさんの方に来ていただければと準備を進めています。例年と同様チケット販売のため都内の各教会に足を運び、支援者の裾野を広げていきます。

### 4 経営基盤の安定化に向けた取組

公益性の高い事業を安定的に継続していくことは、社会福祉法人の大きな責務です。現時点では計画通り業務を進められていたとしても、将来にわたって継続的に活動をしていくためには、難しい課題にも取り組んでいかなければなりません。差しあたり直面している課題は次の3つです。

#### ① 安定した財源の確保

1つ目の課題は財源です。本業の図書館業務は東京都の補助金を財源として実施していますが、諸経費の足りない部分は、ご寄付やチャリティグッズの販売、点字受託事業などの自助努力によって補ってきました。しかし、受託事業は市場の縮小により毎年安定した受注を確保することが難しくなっており、専門技術者の高齢化や担い手不足による生産力の低下、老朽化する設備の維持・交換にかかる費用の増大などを理由に、これまでと同じように事業を継続することが徐々に困難になってきました。事

業には点字の歴史や文化を守るという意味がありますが、点字図書館が図書・出版以外で手がけられる仕事として何ができるかを考えていく必要があります。

仮に業務の縮小となれば新たな収入源となる事業を開拓していくこととなりますが、現時点では未知数です。申請可能な助成金の探索やご寄付の拡大に向けての取組なども見据え、現状の財務基盤に見合った抜本的な業務再編も必要になってきます。同業他施設の動向も分析しつつ、当館のこれからあるべき姿について、職員含め関係者の方と幅広く議論していかなければなりません。

## ② 職員の高齢化への対応

2つ目の課題は人材です。組織の歴史とともに職員の高年齢化が問題となってきました。今年度は若い職員が新たに加わることになっていますが、それでも職員の平均年齢は50歳を超えています。組織を維持していくためには計画的な採用や育成を通して事業を継承していくことが必要不可欠ですが、現時点では長く勤務している職員が辞めると、引き継ぐ仕組みがないため業務自体の継続が難しくなっています。今後定年を迎える職員が増えることが確実な中、将来にわたって図書館事業を続けていくための方策について検討しておかなければなりません。

## ③ 新館建設の可能性の検討

3つ目は場所の問題です。一度はプロジェクトを立ち上げながら実現には至らなかった新館建設について、しっかり方向性を定めなければなりません。当館の事業を考える上で、重くてきびしい課題ですが、最適な答えを導き出していく必要があります。

当法人の将来を左右するこれらの重大な課題について、簡単に結論を出すことは出来ません。そこで、今年度は特別委員会(仮称・ロゴス事業検討委員会)を設置し、有識者から幅広い意見を伺い、これら課題に加え今後の事業方針とそれを支える財政基盤の安定化に向けた具体的な戦略について討議していきます。

## 5 図書館改革の1年に

平成29年度は従来の事業を着実に遂行していくとともに、現状の課題を創造的に解決しながら未来の当法人のあり方を定めていく、重要な1年と位置付けています。難題は数多くありますが、だからこそ新しいぶどうの木、新しいロゴスへ生まれ変わる絶好の機会です。職員一人ひとりが改革への強い意識を持って業務に従事するとともに、理事・評議員をはじめ、多くの方のお力をお借りし、図書館の未来を描いていく所存です。関係者の方におかれましては、現状をご理解いただき、暖かくご指導いただければ幸いです。